

No.2219 実験用ゲートロールコーター

印刷用紙の多様化、高品質化の要求が高まるにつれ、印刷方式の変化、印刷速度のアップ、印刷品質も高度化しております。最近の印刷用コート紙の種類は多岐にわたり、高光沢から微塗工紙と各種製造されています。本機は、ロールコーターの実用機の機能を持ち、塗工結果を左右する様々な条件を設定することにより、実機でのトラブルを実験室段階で検討できます。

- 塗 布 量 $0.5 \sim 10\text{g/m}^2$
- 粘 度 $\text{Max } 3000\text{mPa}\cdot\text{s}(\text{cps})$
- 濃 度 $\text{Max } 65\%$
- 塗工速度 $0 \sim 350\text{m/min}$
- 塗工有効幅 220mm
- 試 料 幅 260mm
- 塗 工 長 $550, 1500\text{mm}$ (カム切換)
- 電 源 3 相 $200/220\text{V}$ $50/60\text{Hz}$ 20A
- エアース 源 0.5MPa
- 外形寸法 本体 $1800 \times 1350 \times 1950\text{mm}$
制御ボックス $965 \times 570 \times 1185\text{mm}$
- 重 量 本体 980kg 制御ボックス 141kg

< 用途及び性能 >

- 1) 高濃度塗工の特徴を生かして、従来のサイズプレスの代わりに使われるばかりでなく、高塗布量が得られる
- 2) 紙への含浸を押えて、塗工液を表面にとどめ、印刷適性の良い紙を作る。又、コート紙の下塗り用としても使用される
- 3) サイズプレスでは、試料取付の搬送板がロール間に進入する際に液はね等の問題があったが、ゲートロールコーターは、低速で回転するファウンテンロールとメータリングロール間で液溜を形成するため、綺麗な塗工が出来る
- 4) 実験用枚葉式コーターとして最大塗工速度が 350m/min をクリアするため高速でのカラーの挙動調査及び塗工が可能である
- 5) 塗工液としてピグメント系と非ピグメント系が使用可能である。塗工量及び濃度の一般的使用範囲は次の通りである

● 塗 工 量 顔料系 $0.8 \sim 10\text{g/m}^2$ 非顔料系 $0.4 \sim 2.5\text{g/m}^2$

● 塗工濃度 顔料系 $20 \sim 65\%$ 非顔料系 $5 \sim 20\%$

- 6) 巻出し、巻取り装置を取り付ければ(オプション)、高速塗工における塗料及び原紙の適応性についての試験が可能である

- 巻取速度 $50 \sim 350\text{m/min}$ インバータ変速、コーターと同期変速
- 紙管内径 $70 \sim 100\text{mm}$
- 紙管外径 100mm (最小)
- 最大巻径 500mm
- 紙 巾 250mm
- テンション 0.4kg/cm (最大)、総テンション 10kg
- 巻取軸ブレーキ 水冷式電磁パウダーブレーキ
- 巻取軸クラッチ 水冷式電磁パウダークラッチ
- 制御装置 ブレーキ、クラッチの電流調節(手動)
- 電 源 3 相 $200/220\text{V}$ $50/60\text{Hz}$ 25A
- 機体寸法 $3800 \times 1300 \times 2300\text{mm}$

